

令和7年度 新田小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤とする，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・よく考える子ども：規範意識をもち，自ら考え，進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども：自他のよさに気付き，共に伸びようとする子ども
- ・体力のある子ども：心身ともに健康で気力や体力に満ちた子ども
- ・はたらく子ども：目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり，保護者・地域住民と一体となって連携・協働し，活気と創意に満ちた教育活動の展開を通して，目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子どもたちが安心して生き生きと自己発揮できる「どの子どもも輝く楽しい学校」
- 児童や保護者にとって「安心・安全な学校」
- 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」
- 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童が安心して生き生きと自己発揮できる「どの子どもも輝く楽しい学校」

- ・児童一人一人を大切に，認めてほめて励ます指導により，自己肯定感・自己有用感を高める。
- ・「わかった，できた」授業を展開し，学ぶ楽しさを感じさせることで，基礎基本の定着と，主体的に学ぶ態度の育成を図る。
- ・互いの違いやよさを認め合うきめ細かな支援を行い，すべての児童にとって楽しく居がい感のもてる温かい雰囲気のある学級経営を推進する。

(2) 児童や保護者にとって，「安心・安全な学校」

- ・児童が心身共に安心・安全で潤いのある環境の中で生活できるよう，温かい人間関係の醸成や学びを高める環境の整備・活用，校舎等の点検・整備に努める。
- ・児童のよさや学校・学級情報を積極的に発信したり，きめ細かで誠意のある対応を心がけたりして，保護者との連携を密にし，共通理解を図る。
- ・地域と連携を図ったり，交通安全教室，避難訓練などを実施したりして，児童自らが生命を守り危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導を強化する。

(3) 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」

- ・協調性と協働性をもち，それぞれのよさを発揮しながら，互いに磨き合える組織づくりをする。
- ・創意ある提案や意見交換を大切にしながら，教職員の資質・能力の向上を目指すとともに，学校経営への参画意識を高める。
- ・教職員がいきいきとやりがいを感じながら勤務し，心身ともに健康で児童と向き合えるよう，働き方改革の視点から「勤務時間を意識した働き方」「校内業務の効率化」「ICTの効果的な活用」などの推進を図る。

(4) 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

- ・地域学校園や児童会の取り組み，及び家庭・地域との連携を生かした「あいさつ運動」を通して，規範意識を高める取組を推進する。
- ・学校支援ボランティアや登下校ボランティアなど，学校を支えてくれる方々への感謝の心を育むよう努める。
- ・学校だよりやHP等による情報発信を積極的に推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 鍛えよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、「県教育振興基本計画 2025」、「第 2 次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「令和 7 年度指導の重点」などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、教科等の関連や地域の教育資源や人材活用を図り、適切かつ、一貫性のある教育課程の編成に努める。
- (3) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえ、実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
児童も教職員も互いを認め合い、成長し合い、自信をもっていきいきと輝く楽しい学校づくりを推進する。
○「認めてほめて伸ばす教育」の実践
○あいさつの響く学校づくりの推進
・わかる授業と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進
- (2) 学習指導
「自ら学び、互いに高め合う児童の育成」
～児童の「わかる!」「考える!」「伝える!」を高める授業の工夫～
・わかる楽しい授業の展開
・望ましい学習態度、習慣の定着
・「学力の基礎・基本」の確実な定着
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
・読解力・表現力の育成
・読書活動の推進
・家庭学習の習慣化
- (3) 児童生徒指導
「自ら考え正しく判断し、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」
～思いやりの心をもって、互いに認め合う学校生活を通して～
・礼儀を意識した挨拶の定着、規範意識の醸成
・居心地のよい温かな学級集団づくりの推進
・縦割り班活動や異学年流を充実させた望ましい集団づくり
・児童に寄り添い豊かな心を養う個に応じた指導の充実
・家庭・地域・関係機関等との連携
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
「自らの健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」
～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～
・健康の保持増進
・運動の日常化
・食に関する指導の充実
・判断力・行動力を育む安全教育
・家庭・地域との連携協力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は, 友達と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を高めるための授業の導入や展開, 指導法を工夫改善したり, 認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして, 児童の学習意欲を高める。 ・校内研修や一人一授業を通して, 対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。 ・進んで学習に取り組むための具体策として, 「自主学習のすすめ」などの指針を子供たちに示すことで, 家庭学習の定着を図る。児童の頑張りを積極的に認めるとともに, 児童同士が頑張りを共有する場を継続的に設定する。 	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は, 91.3%であった。教職員が 96.6%と昨年より大幅に上昇した。いずれも数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今年度は学力向上推進リーダーが本校に勤務し, 教職員一丸となって, 児童が主体的に学習に取り組むことができるよう研鑽を深めた。今後も引き続き学んだことを生かし, 児童への指導に当たっていく。</p> <p>学習活動において, 対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。</p> <p>主体的な学習を推進する取組として, 「自主学習のすすめ」などの指針を家庭学習ががんばり週間の際に活用できるようにする。</p>
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校及び地域学校園道德教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ, 各教科等や体験活動等と関連した道德の授業を連携・工夫して実施することで, 思いやりの心を育む。 ・特別の教科道德及び人権教育年間指導計画に基づき, 教育活動全体を通して計画的に道德及び人権教育を実施する。 ・学級活動などの時間を活用し, ソーシャルスキルトレーニングを行うことで, 人権を尊重する心を育成する。 ・縦割り班で行うわくわく遊びや清掃活動, 兄弟学年で行う農園活動, 感謝の会等の学校行事を通して, 助け合いや思いやりの心を育てる。 ・帰りの会などに友達の良いところを認め合い称賛する機会を設定することで, 相手を思いやる行動を広げていく。 	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 93.1%, 保護者の肯定的回答率は 92.7%であり, とともに目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 学級・学年経営, 道德, 学級活動などの時間を活用し, ソーシャルスキルトレーニングを行うことで, 人権を尊重する心を育成しつつ, 児童一人一人のよさに目を向け, 児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。</p> <p>感謝の会, 6年生を送る会, 体力テスト, 農園活動などの異学年交流を通して, 助け合いや思いやりの心を育てていく。</p> <p>帰りの会を活用して, 友達のよいところを認め合う機会を設定し, 相手を認められる気持ちを醸成していく。</p>

	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や各教科の授業や各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・教職員が認め励ます場として、表彰朝会を行ったり、学期の節目等に教育長奨励賞や校内キラリ賞の表彰をしたりすることで、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 88.6%、教職員の肯定的回答率は 89.7%であり、いずれも目標を達成することができたが、保護者の肯定的回答率は、74.2%であり、目標より 10.8 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 学級活動や各教科の授業、各種検定等において、夢や目標をもつことや、日々の努力の大切さを実感させ、粘り強く意欲的に取り組めるようにねらいを設定していく。</p> <p>教職員が児童の頑張りを認め、学期の節目等に教育長奨励賞や校内キラリ賞の表彰をすることにより、自己肯定感を高めていく。道徳科の学習で考えたことや、児童の思いなどを紹介する機会を設定し、実践意欲を継続できるよう工夫をしていく。また、日々の児童の頑張りを家庭と共有できるように発信していく。</p>
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童・教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の健康に関心を持ち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、様々な授業や学校行事等において「すくすくファイル」や「食育ファイル」などを活用し、養護教諭や学校栄養士などと連携して保健指導や「衛生管理チェックシート」による日常の生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や一斉下校時の指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.2%であり目標を達成したが、教職員については、72.4%と目標を 17.6 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 養護教諭や学校栄養士などと連携して保健指導や「衛生管理チェックシート」による日常の生活指導を行う。</p> <p>栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。</p> <p>判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や一斉下校時の指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。</p> <p>代表委員などの組織活動において校内外における安全指導の充実を図る。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリアパスポートを活用し、各教科や学校行事等との連携を図りながら、児童が自分のよさに気付き、夢や目標をもって取り組もうとする意欲や態度を全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする機会とする。 ・体験活動や交流活動を実施し、積極的に友達や異学年の人々と関わろうとする態度を育成する。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くのことに触れる場を設定することにより、それらのよさに気付き興味関心を高められるようにする。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 89.9%、教職員の肯定的回答率は 89.7%であり、いずれも目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 各教科や特別活動、学校行事等と連携を図りながら、キャリアパスポートを活用し、自分のよさに気付き、夢や目標をもって意欲的に取り組むことができる児童を育成する。</p> <p>体験活動や交流活動を充実させ、積極的に友達や異学年、地域の人々と関わろうとする態度を育成する。</p>

<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>・ALT を有効に活用した外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・教師自身がALT に積極的にに関わり、放課後の打合せを綿密に行い、外国語活動の教材研究をしたり、公開授業や授業研究会に参加したりすることにより、自己の授業力向上に努める。 ・該当学年で授業中に使いたい言葉や表現（クラスルームイングリッシュ）を子供たちに示し、継続して活用することで、達成感や充実感の高揚を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は、84.1%であった。教職員が 96.6%と昨年より上昇した。いずれも数値指標を達成した。 【次年度の方針】 引き続き、教師がALT と放課後の打ち合わせを綿密に行うことや日常生活でのやりとりを通じて、児童とALT の橋渡し役を担い、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 該当学年で授業中に使いたい言葉や表現（クラスルームイングリッシュ）を子供たちに示し、継続して活用することで、達成感や充実感の高揚を図る。</p>
	<p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>・宇都宮学の時間を中心に、伝統文化等を体験できる学習や、ICT を活用する機会を設けることで、宇都宮のよさを児童に気付かせる。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等を通して、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導の充実を努める。 ・道徳において郷土資料を活用し郷土愛を育む。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定回答率は 87.5%で、目標値を上回った。職員は 79.3%で目標値を下回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続し、引き続き社会科や総合的な学習、生活科、道徳などで地域の文化や伝統を学ぶ機会を生み出し、関心を高められるように指導をする。また、郷土資料の開発、活用について、教師自身が宇都宮市の歴史や文化について理解を深めるよう努める。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童 1 人 1 台の端末や ICT 機器を活用し、AI ドリルを併用して効果的な学習に取り組めるようにする。 ・市立図書館学校支援室や地域学校園の学校図書館等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書整備充実を図ったり、調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童 89.4%、教職員 86.2%と肯定回答率の目標値を上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続し、各教科、総合的な学習の時間などでは、図書資料とインターネットの活用の併用を進めていく。また、情報を得る際には、情報の正確性について発達の段階に応じて指導する。 引き続き、デジタル機器の使用と紙媒体もよさを取り入れながら活用していく。</p>
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「わたしは、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させる。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分にできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。 ・委員会活動の中で、SDGs について取り上げたり、関連番組や SDGs の曲を流したりすることで環境問題について啓発し、関心を高められるように指導していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 87.3%で数値指標を上回った。教職員の肯定的回答率は、65.5%で数値指標を下回った。各学年の学習の中で、環境問題について触れる機会が増え、関心が高まってきた。 【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させる。また、委員会活動の中で、環境問題への啓発を高めるポスターを作成し掲示する。 児童の環境問題に関する意識を高めるため、学級内で古紙を回収するなど、校内で環境問題を意識した取組を行う。</p>

<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。</p> <p>・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個別の対応や1人1台端末の活用など個のニーズに応じた支援を組織的に行う。</p> <p>・必要時には即座に校内支援委員会等を開いて対応を検討し、専門機関とつなげるなど、役割分担しながらチームで対応する。</p> <p>・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定回答率は、100%であり、数値目標を達成した。 特別な支援を必要とする児童について、教職員間で共通理解を図りながら、組織的な対応に努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、学校生活での様子をよく見守り、児童の実態や変化に応じた支援策を考え、行っていく。</p> <p>担任が一人で抱え込むことなく、職員間で定期的に児童の情報交換の場を設け、共通理解を図りながら、組織的に対応していく。</p> <p>必要に応じて、校内支援委員会等を開き、児童や保護者からの願いも生かしながら、支援策を検討したり、専門機関と連携したりしていく。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。</p> <p>・全校で「いじめゼロ宣言」を作成したり、強調月間に校内放送で呼び掛けたりする。また、児童が主体となって「いじめゼロ集会」を企画・運営し、望ましい児童集団の育成に努める。</p> <p>「新田小はいつでもいじめゼロ」を合言葉にして、児童にいじめゼロを意識させる。</p> <p>・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。</p> <p>・学校の取組を保護者に知ってもらうために、学年だよりにいじめ防止に向けた取組を記載したり、学校公開日や授業参観等でいじめ防止に関する授業を公開したりすることで保護者や地域に発信し、周知を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.5%、保護者の肯定的回答率は 80.8%で、どちらも数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学校における全教育活動を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導し、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。</p> <p>児童が主体となって「いじめゼロ集会」を企画・運営できるようにし、望ましい児童集団の育成に努める。</p> <p>アンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解し、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。</p> <p>保護者の肯定的回答率が数値指標をわずかに上回っているという状況であることから、次年度も、学校の取組を保護者に知ってもらうために、学年だよりにいじめ防止に向けた取組を記載したり、学校公開日や授業参観等でいじめ防止に関する授業を公開したりする。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。</p> <p>・教育相談週間（年2回）や学校生活アンケート（年4回）、Q-U（3年以上1回、5年のみ2回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関や家庭との連携を図りながら、組織的に支援を行う。</p> <p>・不登校対策の手引書（宇都宮市）の合言葉「子どもに寄り添う学校づくり 抱え込まずにみんなで支援」に従って、全教職員共通理解のもとに支援を行っていくとともに、必要に応じてケース会議等を行っていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.6%、保護者の肯定的回答率は 90.4%で、どちらも数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 教職員が児童のよさを認め励ます場を設定し、分かる楽しい授業を心掛けるとともに、児童が相互に友達のよさを認め合う場面を充実させる。</p> <p>教育相談やQ-U等により児童の実態把握をすると同時に、要配慮児童の早期発見に努めながら、組織的な支援・対応を継続していく。</p> <p>不登校対策の手引書（宇都宮市）の合言葉「子供に寄り添う学校づくり 抱え込まずにみんなで支援」に従って、全教職員共通理解のもとに支援を行っていくとともに、必要に応じてケース会議等を行っていく。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生は、困った時に相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童に直接言葉を掛けたり、教師間でプラスのメッセージを伝え合ったりして、児童の自己肯定感を高める取組を行う。</p> <p>・児童会活動や異学年交流など、様々な教育活動の内容を工夫し、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、高学年児童がリーダーシップを発揮できるようにしたり、全学年の児童が体験を通して思いやりの心を育てるようにしたりする取組を継続していく。</p> <p>・教育相談や学校生活アンケート等を定期的実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、家庭とも連携し全児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率は、児童 96.2%、教職員 100%、保護者 88.1%、地域住民 100%で、保護者の肯定的回答率は数値指標を 1.9 ポイント下回った。</p> <p>学校全体で、児童一人一人のよさに目を向けて生かす取組をしたり、あいさつ運動や児童会活動、縦割り班活動を充実させたりしながら、児童の達成感や自己肯定感を高めようと努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】 今後も学校全体で、児童一人一人のよさに目を向け、認め励まししながら、自己肯定感を高める取組を行っていく。</p> <p>児童が楽しく、いきいきとした学校生活を送れるよう、あいさつ運動や児童会活動、縦割り班活動をさらに充実させ、各種便りや懇談の機会などに、児童の様子を発信していく。また、教育相談や学校生活アンケートを定期的実施し、児童の思いや悩みに寄り添い、いじめの早期発見と早期対応に努めていく。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認することにより、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・「分かる・できる・楽しい授業」を展開するため、児童の振り返りを生かした授業改善に努める。</p> <p>・ティームティーチング、少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。</p> <p>・児童の様子や学習の成果をさまざまな方法を活用し保護者に発信する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 97.7%で、数値指標を達成した。保護者の肯定的回答率は 87.7%で、昨年度より微増したが、数値指標はやや下回った。</p> <p>【次年度の方針】 授業のねらいを明確化し、まとめや振り返りの型を示すなどして、「分かる・できる・楽しい授業」の展開に努める。</p> <p>また、引き続き、児童一人一人の学習状況に応じた指導を教職員全体で組織的に行っていく。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館司書や外国語指導助手 (ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー (SC) 等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、教職員間でコミュニケーションを図り、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、共有して取り組めるようにする。 ・学年会を行事予定に明示し、提出物や話し合いが必要な事案について、協力して取り組む。また、校務分掌や、学校全体で相談したい内容について、校内研修等で時間を確保する。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定回答率は 96.6%で数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の方針を継続する。 今後も職員間でのコミュニケーションを活発にしていくとともに、児童指導等必要な場面で組織的に対応できるよう意識づけを図っていく</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、児童の実態等を考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の目的を明確にして、実施方法の見直し、改善、業務のスリム化を行う。 ・働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。リフレッシュカレンダーの活用も図る。 ・学習情報システムや ICT をはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定回答率は 89.7%で数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続するとともに、より効率的な業務の在り方について検討を継続していく。 ※リフレッシュカレンダーの活用を推進していく。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ・WGS あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生の行事等への参加などを積極的に受け入れ、地域の活性化を図る。 ・地域学校園内で交流が図れるように、一人一台端末を有効に活用する。 ・各種たよりやホームページなどで、小中一貫の取組の様子が分かる写真を数多く掲載するなど、保護者や地域に向けて積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。 	<p>【達成状況】 教職員と地域住民は目標値を上回ったが、保護者の肯定回答は下回った。</p> <p>【次年度の方針】 保護者の肯定回答は目標値を下回ったが、昨年度よりも向上しているので引き続き取組を継続していく。 小中一貫の取組による成果等について、周囲に情報発信し、理解を得ていく。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいく。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・オープンスクールを積極的に行い、自由に参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。 	<p>【達成状況】 保護者、地域住民ともに目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。今後も、地域の教育力の活用を進めるとともに、学校の取組の成果や児童の姿について、周囲の理解を得られるよう、積極的な発信について取り組んでいく。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努め、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 93.1%、保護者の肯定的回答率は 92.5%であり、いずれも数値目標を達成した。 学校安全点検実施計画に基づき、校内の安全点検や危機管理マニュアルの改善に努め、4回の避難訓練や引渡訓練なども実施した。把握した危険箇所について、すぐに周知徹底したり、可能な限り修繕したりすることもできた。 熱中症予防対策に力を入れ、感染症の流行期や給食指導などの場面でも時季を得た指導を行うことができた。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続していくと共に、危機対応や衛生面に関する情報の更新に心を配り、誰にとっても安心安全な学校づくりに努めていく。 地域住民の方と協力して、児童の登下校時の安全確保にも取り組んでいく。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務にデジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>・各教科等年間指導計画の見直しを行い、どの単元のどの時間で ICT 機器を活用すると効果的なのかについて検討し、情報の共有を図る。 ・各教科等年間指導計画の中に、どの単元のどの時間で ICT 機器を活用すると効果的なのか、授業実践したことをその都度取り入れ、見直しや補充を図りながら、教員間の情報の共有を進める。 ・校内研修を設定し、デジタル機器を活用した授業実践の情報交換を行い、教職員の指導力向上を図る。 ・校内研修を設定し、デジタル機器を活用した授業実践の情報交換を行ったり、ICT 支援員から新しい操作技術や授業での活用方法に関する情報を得たりしながら、教職員の指導力向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は、93.1%と数値目標を達成した。 定期的に校内研修を実施し、デジタル機器を活用した授業実践の情報交換を行ったり、ICT 支援員と連携しながら一人一台端末を使った授業実践に取り組んだりしてきた。 【次年度の方針】 今後も、情報教育主任を中心とした校内研修を定期的実施していく。また、ICT 支援員の来校時に、一人一台端末の活用方法についての情報を聞いたり、他校の実践例を紹介してもらったりしながら、教職員の操作技術や指導力向上に努めていく。 また、どの単元のどの時間で一人一台端末を活用すると効果的だったか、教職員間で情報を共有し、授業実践に生かしていく。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率各 80%以上</p>	<p>・全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGS あいさつ運動」を継続していくとともに、「あいさつ運動週間」における振り返りを行い、意識を高める。また、あいさつに対する自分の目標を設定することで、意識を高める。 ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・家庭内でのあいさつを活性化させるために学級懇談や学年だよりを通して啓発していく。 ・校内放送などを活用し、あいさつの大切さを伝え、啓発を続けていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 89.0%、保護者の肯定的回答率は 82.6%で数値目標を上回った。地域住民は昨年度よりも増加しているが、72.7%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 校内及び地域学校園でのあいさつ運動や授業等の場面を通して、時と場に応じたあいさつの定着を図る。また、校内だけでなく、登下校時の地域住民に対してのあいさつの充実も図っていく。 家庭でもあいさつの大切さを伝えるように学級懇談や学年だよりを通して啓発していく。 校内放送などを活用し、あいさつの大切さを伝え、啓発を続けていく。</p>

<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のきまり（「新田小のよい子の一日」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、様々な時間を活用し、自ら振り返る活動を行うことで、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。 ・生活のきまりやマナー以外のルールについては、教職員共通理解のもと、全児童に周知徹底していく。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 95.3%、保護者の肯定的回答率は 88.4%で数値指標を上回った。教職員は昨年度よりも大幅に増加しているが、82.8%で数値指標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 生活のきまりの意味を児童とともに考えていくことを通して、きまりの必要性を感じ取らせながら教職員が同歩調で継続して指導することで生活習慣の定着を図る。 また、月の生活目標について、様々な時間を活用し、自ら振り返る活動を行うことで、児童の規範意識を高めていく。生活のきまりやマナー以外のルールについては、教職員共通理解のもと、全児童に周知徹底していく。</p>
<p>B3 児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携・協力を図りながら、児童自ら家庭学習の計画・実践・振り返りまでできるよう、保護者への啓発を行い、支援に努める。 ・家庭学習のよい事例やノートを教室や学年間で掲示・紹介し、自主学習への意欲を高めるようにする。 	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 69.9%で、数値指標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 家庭学習のよい事例やノートを教室や学年間で掲示して自主学習への意欲を高める。授業参観等にも掲示しておくことで、自主学習の例を示し、保護者への啓発活動を行う。 今年度から実施した家庭学習がんばり週間を次年度も継続して行っていく。</p>
<p>B4 児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート「児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の活動時間帯の定期的な読書の時間や、ボランティアによる読み聞かせ、読書週間での催し等、本に触れ合い親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。 ・本校図書の分館貸出し、市立図書館学校支援室の有効活用や、児童によるおすすめの本の紹介をするなど、本を手にするための場を増やす。 ・家庭と連携した家読（「家族読書」）を実践し、児童と本をつなぐ取組を推進するほか、保護者への啓発活動も行っていく。 ・図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 81.4%で数値指標をやや上回った。教職員の肯定的回答率は 89.7%で数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 貸出冊数を増やしたことで読書の質が上がり、学年にふさわしい本を選ぶ力が身に付いてきた。 次年度も家庭と連携した家読（「家族読書」）を継続する。 図書だよりや一人一台端末の中で、図書室や委員会児童による本の紹介を行う場を設けることで、多様な本に触れ合い親しむことができるようにする。</p>
<p>B5 児童は、異学年交流を通して、思いやりの心など、豊かな人間性を育てている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年での農園活動や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしたり、学年ごとに役割を与え、互いに教え合う機会を意図的に設定したりする。 ・学習や休み時間など、日常の中で交流できる機会を増やし、様々な学年と関わりをもてるようにする。 ・上学年児童には、誰かの役に立つ経験を多く積ませ、自己有用感を高められるようにし、下学年児童には、感謝の気持ちや、上学年児童への憧れの気持ちを育てるよう支援する。 	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 89.4%、教職員の肯定的回答率は 86.2%で、どちらも数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 異学年交流の活動や幼保小連携活動の機会を計画的に取り入れ、児童がそれぞれの立場で協力するためにはどうしたら良いかを考えながら、行動できるように支援していく。そして、活動の取組や児童の様子を学校だよりやホームページ等で地域に発信し続けていく。 上学年の児童が下級生に優しく教えたり、下学年の児童は上級生に感謝の気持ちを伝えたりする機会を大切にしていこうと、思いやりの心や豊かな人間性を育てていくようにする。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・25の評価項目のうち、15項目で肯定的回答割合が目標値を上回った。
 - ・「目標に向かって粘り強く取り組む」「活気があり、明るく生き生きとした学校」については、児童・教職員・地域と保護者の肯定的回答割合に開きがあった。児童の取組や頑張った成果や、学校での生き生きと活動する児童の姿について、より一層発信していく必要がある。
 - ・「健康や安全に気を付けて生活する」「決まりやマナーを守る」ことについては、児童自身は「気を付けている・守れている」と感じているようだが、生活の様子からは配慮の足りない面もみられる。守るべき決まりを焦点化させた取組を実施し、一つ一つ達成していく中で、決まりやマナーを守りながら安全な生活を送れるようにしていきたい。
 - ・「持続可能な社会」について授業などで取り扱い、関心の高まりは感じられている。それが自らの生活と結びつき、生活に生かしていく意識付けまでには至っていない。様々な場面を通じて持続可能な社会への取組を意識させ、自らの生活に生かしていこうとする意識付けを図っていきたい。
 - ・「学力の向上」について、自ら学び、互いに高め合う児童の育成」というテーマで学校全体で研究に取り組み、めあてを明確にし、互いに学びあい、まとめ・振り返りをしっかり行う授業改善に取り組んできた。今後、基礎基本の定着に向け、より一層の工夫改善をしていく必要がある。
- 「小中一環の取組」について、目標値は達成していないものの、昨年度より向上している。今後も現在の取組を継続するとともに、積極的な成果の発信をしていく
- ・「宇都宮のよさ」については、様々な教育の場を通じて随時取り扱っているが、児童が実感できるところまで深化していないと思われる。様々な場で取り上げつつ、その際に宇都宮のよさとして意識させ、実感できるようにしていきたい。
- 「時と場に応じた挨拶」については、校内ではできているようだが、相変わらず校外でのあいさつについては不十分な様子が見られる。地域学校園で行っている「あいさつ運動」などの取組を継続するとともに、様々な場面で積極的な挨拶を呼びかけ、地域でも元気に挨拶できる児童を育成していきたい。
- 「学習の習慣化」については、今年度より家庭学習強化週間の取組を始めた。今後も継続しつつ、家庭学習の質的なものまで啓発していくように取り組んでいきたい。

7 学校関係者評価

○決まりとマナー・挨拶について

- ・挨拶について、きちんとできる児童がいるが全体的にみると少ない。
- ・朝、安全ボランティアの挨拶に答える様子が見られない。
- ・登校時はそろって挨拶する班と声をかけても返事のない班がある。
- ・下校時には声をかけると大半の児童が返事を返してくれる。
- ・学校内ではよく挨拶できている。全体的にもよくできていると思う。
- ・授業参観等では授業の開始時刻が守れている。決まりを守ることができていると思う。
- ・横断歩道でしっかり手を挙げ、元気に挨拶できている児童がいる。
- ・低中学年の児童の方が高学年児童より挨拶できる。

○地域の教育力を活かした特色ある教育活動および家庭・地域・企業等との連携協力について

- ・地域では伝統文化体験やイベントを通して子供たちと交流し、文化を守ることの大切さや地域との親睦を深めている。
- ・行われている行事への参加を学校で自治会などと連携し呼びかけてはどうだろうか。
- ・地域での行事に有志の方が協力し、喜んで参加している児童がいる。
- ・もっと多くの方と関われるよう機会を増やしてあげてほしい。
- ・地域の方のボランティアなど、協力が得られている。
- ・地域にある学習材を活かした授業づくりなど、地域の教育力を活かした教育活動を展開している。
- ・近隣の企業により、駐車場の協力が得られるなど、活用ができている。
- ・自治会で行っている行事・体育祭などに児童が参加してくれるのはありがたい。より参加を促してほしい。
- ・限られた時間の中、地域の教育力を活用するなど工夫されていると思う。
- ・地域や近隣企業に学校の状況をおおいに紹介していくことが必要、学校のイベントに企業などを招待してはどうか。

○児童の安全確保・危機管理について

- ・児童は登下校時など、自分で判断し、自分の命は自分で守ることが第一だと思う。
- ・通学路で安全に登下校し、出会った人に挨拶をしていくよう育てていく必要がある。
- ・地域の防災訓練などへの参加を呼び掛ける必要がある。

- ・自治会がとても協力的・積極的で、登下校の児童の安全確保は自治会の協力なしでは守れない。
- ・夏の猛暑時にWBGT指数による下校待機を行うなど、安全確保に努めていたと思う。
- ・こども110番の家のプレートは地味だが効果的だと思う。
- ・子供に関わっている方は「安全」を意識していろいろなところを見ている。その目をもっと増やしていくことが課題。
- ・ボランティアの人数減に対し、対策が必要。
- ・学校のできる対応はしていると思う。
- ・登下校の安全確保について、先生方と地域の方の見守り活動の実施に感謝している。
- ・さくら連絡網等のツールでその日の状況がすぐわかり、見守り等に役立っている。

○学校の活気・生き生きとした児童について

- ・学校の行事・下校時の様子等で見る姿からは、とても生き生きとして活気に満ちている児童が多い。
- ・イベントをするときに生き生きとしてすぐ取り組もうとする姿勢がみられる。
- ・もっと外遊びに力を入れたらと思う。魅力的な遊具など、人数に見合った分を用意し、外で遊びたいと思わせる環境づくりに力を入れてほしい
- ・学校に行くことが楽しいと児童が言っているのを聞いたことがある。
- ・授業参観の中で生き生きと学ぶ児童がいる一方、授業に集中できない児童も見られた。主体的・意欲的に授業に取り組める児童を少しでも増やして欲しい。
- ・楽しく元気に活動する児童の多い、活気のある学校だと思う。

○学校教育全般に関して

- ・清掃ができていない。特にこの時期（冬期）の砂埃がある。
- ・子供達には起こった問題に対して自分達で考え、答えを出し、解決するために動く力を身につけてほしい。特に小学生のうちにはたくさん失敗をすることが大きく成長する土台となる。忙しい中見守るのは大変だが、先生方には頑張っていたほしい
- ・体育館のトイレでゴミが散乱していたことがある。子供が衛生的に使用できていないのではないかと心配になった。施設貸し出しで利用している団体もいるので、清掃のルールが徹底するとよい。
- ・授業参観で先生方の熱心な取組を見ることができた。今後も授業の改善にさらに取り組み、授業を通し子供を育ててほしい。
- ・今年度は花壇がいつもきれいに整えられていた。よい環境はよい子供を作るもとだと思う。
- ・全国的にボランティアをやってくれる方がいなくなっている。
- ・自治会行事に子供たちが参加し、役割を与えて取り組んでもらっている。今後も地域と子供たちのふれあいを大切に、文化をつなげていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

〈学校運営〉

「児童も教職員も互いを認め合い、成長し合い、自信をもっていきいきと輝く楽しい学校づくりを推進する。」を重点目標に「認めてほめて伸ばす教育」の実践・あいさつの響く学校づくりの推進・わかる授業と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進に取り組んできた。特に「認めてほめて伸ばす教育」については、昨年度から継続して全教職員で取り組み、さらに自己肯定感を高め、互いに認め合う集団作りを進めることができた。

次年度も、本校の教育具体目標である「よく考える子ども」「思いやりのある子ども」「体力のある子ども」「はたらく子ども」の実現に向け、教職員の同僚性をさらに高め、チームとして教育に当たり、得られた成果を積極的に発信し、保護者や地域の理解を得ながら学校運営に取り組んでいく

〈学習指導〉

「自ら学び、互いに高め合う児童の育成 ～児童の「わかる」「考える」「伝える」を高める授業の工夫～」を重点目標に「わかる楽しい授業の展開」「望ましい学習態度、習慣の定着」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「学力の基礎・基本」の確実な定着」「読解力、表現力の育成」「読書活動の推進」「家庭学習の習慣化」に取り組んだ。今年度は学力向上推進リーダー・学力向上コーディネーターから指導を仰ぎ、単元全体を見通した授業計画づくりと「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」について意識して取り組んできた。児童の学びの姿として、課題に対して互いに意見を交換し合い、主体的に学習に取り組む姿が多く見られるようになり、主体的な学習への取組の評価項目においても目標の指標を達成するなど、一定の効果を得た。しかし、学習習慣作りや学力の向上までには至っていない。主体的に学びに向かえるようになったよさを活かしつつ、学んだことをしっかり定着させ、活用していく力の育成に向け、取組を継続していきたい。

〈児童生徒指導〉

「自ら考え正しく判断し、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成 ～思いやりの心をもって、互いに認め合う学校生活を通して～」を重点目標に「礼儀を意識した挨拶の定着、規範意識の醸成」「居心地のよい温かな学級集団づくりの推進」「縦割り班活動や異学年流を充実させた望ましい集団づくり」「児童に寄り添い豊かな心を養う個に応じた指導の充実」「家庭・地域・関係機関等との連携」について取り組んできた。縦割り班活動を積極的に取り入れ、自主的に活動をするにより、達成感を得るとともに、異学年での交流を深め、児童に思いやりの心を育むことができてきている。また、決まりやマナーを守ることにに関して細やかに声を掛け続け、決まりやマナーについて考えることができるようになってきた。今後は、決まりやマナーを守る行動がとれるよう声を掛け続けていきたい。また、時と場に応じた挨拶については、校内ではかなり向上しているものの、校外では自ら積極的に挨拶するまでには至っていない現状がある。誰にでも自分から元気に挨拶できる児童の育成に向け、あいさつ運動への取組や声掛けを継続していきたい。特別活動などで、児童が主体的に活動する機会を確保し、正しい判断のもと、思いやりの心をもって豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成を目指し、家庭や地域、関係機関と連携しながら取り組んでいく。

〈健康（体力・保健・食・安全）〉

「自らの健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成 ～生活習慣の改善を目指した保健指導の取組を中心として～」を重点目標に、「健康の保持増進」「運動の日常化」「食に関する指導の充実」「判断力・行動力を育む安全教育」「家庭・地域との連携協力」に取り組んできた。教職員が児童に声をかけるだけでなく、運動の日常化や健康な食生活の意識づけに関して児童会の各種委員会活動でさまざまな活動を企画するなど、自らが主体的に考え、判断し、行動することができるような指導の工夫改善をより進めてきた。今後も、今年度の成果と課題をもとに、指導方法を工夫改善し、健康な心と体で生き生きとした学校生活を送る、健やかでのびのびとした児童の育成に取り組んでいく。